令和８年度

取扱注意

授業改善推進プラン【後期課程】

①令和８年度北区立中学校（後期課程）学力向上を図るための全体計画（様式１）
②令和８年度第７～９学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析（様式２）
③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案　５教科（様式３）

東京都北区立都の北学園

〔様式1〕

令和8年度　北区立中学校（後期課程）学力向上を図るための全体計画

東京都北区立都の北学園

令和8年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語	記述式問題の正答率が低く、白紙解答が多いことも課題である。書くことへの心理的なハードルを下げながら形式に則って書く練習を繰り返すことで、自分の考えを論理的に構成し、条件に従って書く力を伸長させる必要がある。
社会	歴史分野の知識の定着（特に漢字表記や人物・時代の理解）や、地理・公民における地図・資料を読み取る力に課題が見られる。また、歴史・地理における短答・記述問題や活用問題への対応力・表現力の向上が求められる。
数学	「場合の数」「グラフの読み取り」「小数の計算」などの基礎的処理・分析能力に課題が見られるほか、平面図形の性質の説明やデータの多角的な分析・考察といった、思考力・表現力を問う問題での正答率向上・定着が課題である。
理科	全体的に用語や意味などの「知識・技能」の定着度が低く、特に計算を伴う分野（水溶液や力など）や作図・エネルギー分野に課題が見られる。また、観察・実験を踏まえて考えや仕組みを文章や言葉で説明する記述力・表現力の向上が求められる。
英語	語彙や発音・フォニックスなどの基礎知識や基本的なリスニングに課題が見られる。また、文章全体の要点や指示語の内容を正確に読み取る力、および指定された情報や自由な条件のもとで論理的に英文を構成する思考・判断・表現力（英作文）の向上が課題である。

本校が生徒に育成したい力

〇基礎的・基本的な知識・技能の定着・向上
〇家庭学習の習慣化
〇各教科の思考力・判断力・表現力の育成
〇学びに向かう力の育成

校内における学力向上推進体制

〇校内研究を日々の授業に生かし、思考力を高めるための課題設定の工夫を中心に授業改善の実践を行っていく。
〇ICTを有効に活用し、分かりやすく創意工夫された授業をして、学力の向上を図る。
〇授業についての情報交換・意見交流を活発に行い、授業力の向上を目指す。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・各教科の単元・題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。 ・課題に応じた指導に重点を置き、基礎基本の定着を図る。 ・ALTを活用した英語教育の改善を図る。また、数学科で東京方式の習熟度別少人数授業を実施する。 ・一人1台端末「きたコン」の活用を充実させ、基礎基本の定着や考えの共有による学びの深まりを実現していく。	・前期課程、後期課程の系統性を明確にし、それを生かして日々の授業改善を行っていく。 ・GIGAスクール構想における一人1台端末「きたコン」を活用とした授業の実施。	・研究主題が「自分の考えを表現することのできる児童・生徒の育成 」である校内研究を推進し、ユニバーサルデザインの考えを取り入れながら9年間系統立てて指導していくことを目指す。 ・教員同士の授業参観や交換授業等のOJT研修を積極的に行い、それぞれの授業力を向上させる。	・意図的、計画的な指導を通して、授業と評価の一体化を図る。 ・「後期課程年間指導・評価計画」を作成し、生徒と保護者に周知する。	・学校での教育活動を積極的に公開したり、授業の様子やねらい等を伝えたりすることで、協力して子どもを育てる意識をつくっていく。 ・個別懇談や保護者会等を通して、保護者と教員による生徒の相互理解を図る。 ・家庭学習の重要性を個別懇談や保護者会等で継続的に伝え、家庭の協力を得ながら指導を進める。 ・保護者等による学校評価を実施し、学校での教育活動をよりよいものに改善していく。

本校の教育目標

社会の急速な発展に伴う教育的課題に対応するとともに、発達段階に応じた9年間の切れ目のない指導を展開し、地域と共にぬくもり溢れる学び舎で、ふるさと北区の一員としての自覚をもち、国際社会で活躍できる児童・生徒を育成する。
1．自分と他人のよさを認め、互いを思いやる心豊かな人（ゆたかな心）
2．自ら考え正しく判断し、ねばり強くやり遂げる人（学びつづける力）
3．心も体も健康で、仲間とともに取り組む人（すこやかな体）

学力向上にかかわる経営方針

・各教科の単元、題材のまとまりの計画を立ててから授業に臨む。計画は週案簿に明示する。
・ICT機器を日常的に活用し、分かる授業を目指す。
・学習する生徒の視点に立ち、授業を見直し改善する。
・「授業改善推進プラン」は策定直後からプランに基づく授業改善に日々取り組む。
・習熟度別少人数指導を実施し、個に応じた指導を展開することで、確かな学力の定着を図る。
・正しい日本語を用いて指導に当たる。
・多様なニーズに対応できるよう、教材準備に努める。

〔様式2〕　令和8年度　第7学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立都の北学園

国　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均は67.4%であり、区平均(66.4%)および全国平均(62.7%)を上回っています。特に「我が国の言語文化(89.7%)」や「情報の扱い方(79.4%)」は全国比で高い数値です。一方で、「書くこと(56.5%)」は他領域に比べて正答率が低くなっています。	「知識・技能」は75.0%と良好ですが、「思考・判断・表現」は62.4%にとどまりました。全国平均との比較では、知識面での数値が高い一方、表現技能の数値は相対的に低くなっています。	読解・聞き取りの正答率は高いものの、条件付きの記述問題で課題が見られます。問3「質問作成」は無解答率が31.8%と高く（区23.1%）、解答しても条件「最後の発言を取り上げる」を漏らした割合が10.3%と多く見られました。
社　会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は52.74%で全国平均を0.9ポイント下回り、区平均を1.6ポイント下回る結果となりました。内容項目別で、公民は全国、区ともに平均を上回りましたが、歴史の「縄文時代～平安時代」「鎌倉時代～室町時代」「安土桃山時代～江戸時代」は全国、区ともに平均を下回りました。「明治時代～昭和時代」「世界の中の日本」は、全国を上回ったものの、それぞれ0.8ポイント、2.9ポイント、区を下回りました。	観点別では「知識・技能」が全国、区ともに、それぞれ平均を1.3ポイントと1.9ポイント下回りました。「思考・判断・表現」も全国、区ともに、それぞれ平均を0.2ポイントと1.1ポイント下回りました。	内容別項目の公民的分野が全国、区ともに平均を上回っているにもかかわらず、教科の正答率は観点別の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」ともに全国、区平均を下回っています。歴史的分野の全般的な学力の低さが課題となっています。
数　学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は全国平均を4.0ポイント上回り、区平均を0.5ポイント下回りました。「文字と式」が全国を14.7ポイント、「平面図形」が全国を13．1ポイント上回りました。「場合の数」については、全国平均を11．4ポイント、「グラフの読み取り」については、5．0ポイント下回りました。	知識・理解が全国平均を2．9ポイント上回り、区平均を1．2ポイント下回りました。思考・判断・表現では全国平均を0．8ポイント、区平均を6．2ポイント上回りました。全体で全国平均と区平均と同程度であるとはいえ、問題別に見ると目標値を下回る問題もあります。	内容別正答率や2つの観点で全国平均を上回っており、基礎学力が定着している生徒が多いことが伺えます。その中で内容「式の計算」と「確率」の正答率の高さが観点「知識・理解」の正答率の高さにつながりました。内容「証明」の正答率の高さが観点「思考・判断・表現」の正答率の高さにつながりました。
理　科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を2.5ポイント下回り、区平均も0.9ポイント下回りました。内容別では、「物質・エネルギー」で0.5ポイント、「生命・地球」で3.8ポイント全国平均を下回りました。	「知識・技能」は全国平均を3.0ポイント下回り、区平均を0.2ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を1.9ポイント、区平均を1.8ポイント下回りました。	基本的な知識や実験の技能が定着していません。選択問題の無回答率が低いですが、どの分野であっても記述で答える問題を苦手としているため、「思考・判断・表現」の正答率の低さにつながったと考えられます。
英　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を4.3ポイント上回りましたが、区の平均は0.4ポイント下回りました。内容別では、「アルファベットの読み、発音、フォニックス」、「会話文のリスニング」の分野で大きく下回りました。	「知識・技能」は全国平均を5.0ポイント、区平均を0.1ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を3.2ポイント上回り、区平均を1.5ポイント下回りました。「思考・判断・表現」の観点に課題があることが考えられます。	自由英作文について正答率が低く無回答が目立ち、「会話文の聞き取り」も劣っている。内容は理解していても要点が掴めていなかったり、自分の考えを述べることが弱点で「思考・判断・表現」に課題がある思われます。

〔様式2〕　　令和8年度　第8学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析

国　　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は63.8%で全国平均を2.9ポイント上回り、区平均では同じという結果となりました。内容項目別（8項目）では、「文法・語句に関する事項」が区平均を0.7ポイント、「説明的な文章の内容を読み取る」が区平均を4.5ポイント、「文学的な文章の内容を読み取る」が2.1ポイント下回る結果となりました。	観点別では「知識・技能」が4.5ポイント上回り、「思考・判断・表現」が区平均を2.1ポイントと下回りました。「思考・判断・表現」の観点に課題があると考えられます。	「知識・技能」の正答率は高いですが、読み取ったり聞き取ったりする問題の正答率が低いです。また、文章や作文を記述する問題の正答率も低いため、自らの体験を、国語の知識と結び付けていく練習を日頃の授業から実施する必要があります。
社　　会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を1.7ポイント下回り、区平均も1.1ポイント下回りました。内容別では、全国平均と比べると、地理の分野で0.5ポイント、歴史の分野で2.6ポイント下回りました。	「知識・技能」は全国平均を1.0ポイント下回り、区平均を0.1ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を2.8ポイント、区平均3.6ポイント下回りました。特に「思考・判断・表現」の観点に課題がります。	「思考・判断・表現」の正答率が低く、基礎知識の応用に課題があると考えられます。また、特に歴史分野の飛鳥時代～平安時代の正答率が全国平均から低く、特にこの分野の知識が身に付いていません。
数　　学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容項目で全国平均を上回りました。区平均と比較すると、「平面図形」の分野で0.3ポイント、「データの分布の傾向」の分野で2.1ポイント下回りました。	知識・理解が全国平均を7.1ポイント、区平均を2.1ポイント上回りました。思考・判断・表現では全国平均を3.1ポイント上回り、区平均を0.4ポイント下回りました。	基礎的な学力は定着しているものの、それを活用する力に課題があります。その中でも「データの分布の傾向」の正答率の低さはその傾向が顕著に表れています。
理　　科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を2.4ポイント下回り、区平均も1.6ポイント下回りました。内容別では、全国平均と比べると、エネルギーの分野で7.2ポイント、生命の分野で10.4ポイント下回り、粒子の分野で1.4ポイント、地球の分野で5.3ポイント上回りました。	「知識・技能」は全国平均を6.3ポイント下回り、区平均を4.1ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を2.8ポイント、区平均を1.7ポイント上回りました。「知識・技能」の観点に課題があります。	「思考・判断・表現」の能力については、定着がしていますが、「知識・技能」の正答率が低く、用語の定着に課題があると考えられます。また、特にエネルギー分野が全国平均と比べて低く、特にこの分野の知識が身に付いていない。
英　　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を9.8ポイント上回り、区の平均も0.6ポイント上回りました。内容別では、「リスニング」、「語彙」「英作文」の分野で全国平均を大きく上回りました。	「知識・技能」は全国平均を6.8ポイント上回り、区平均を1.1ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を15.9ポイント、区平均を4.1ポイント上回りました。よって「知識・技能」の観点に課題があります。	「思考・判断・表現」の能力については、定着していますが、「知識・技能」の正答率が低く、英文読解の正答率が低いこと、また英作文の無回答率が高かったことから、語句や文法事項の定着に課題があると思われます。

〔様式2〕　　令和8年度　第9学年「北区基礎・基本の定着度調査」（北区教育委員会）結果の内容別・観点別の分析

国　　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は67.7%と高く、区平均（64.0%）や全国平均（61.3%）を大きく上回りました。特に「情報の扱い方（77.8%）」の正答率は、全国平均（67.7%）と比較して10ポイント以上高い結果でした。	「知識・技能」は65.9%であり、全国平均（59.8%）を大きく上回りました。また、「思考・判断・表現」についても68.8%であり、全国平均（62.3%）を大きく上回りました。	記述条件を伴う設問の正答率の低さが目立ちました。問21（共通点の記述）では記述条件の語を使っていない誤答が25.9%と多く見られました。また、大問7（意見文）では無解答が21.0%に達しており、文章構成の最初の段階に課題があると思われます。
社　　会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を1.3ポイント上回り、区平均も0.7ポイント上回りました。内容別では、全国平均と比べると、地理の分野で2.5ポイント、歴史の分野で0.2ポイント上回りました。	「知識・技能」は全国平均を0.2ポイント上回り、区平均を0.4ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を2.9ポイント、区平均を0.5ポイント上回りました。	基礎・活用について、定着しています。しかし「地域調査の手法」と「明治時代」の分野で正答率が低くなりました。地形図を活用することが19.8%と低くなっている。また、開国とその影響について資料の活用が39.5%と低くなっている。
数　　学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は全国平均を12.1%、区平均を5.7ポイント上回りました。すべての内容別正答率で全国平均を上回る結果となりました。「証明」が全国を21.9ポイント、区を10.8ポイント上回りました。「データの分布の傾向」が全国を12.7ポイント、区を9.0ポイント上回りました。「図形の性質」については、全国平均を13.6ポイント、区平均を8.7ポイント上回りました。	知識・技能が全国平均を11.9ポイント、区平均を5.6ポイント上回りました。思考・判断・表現では全国平均を12.8ポイント、区平均を6.0ポイント上回りました。	内容別正答率や全ての観点で全国平均を上回っており、学力が定着している生徒が多いことが伺えます。その中で内容項目「証明」と「図形の性質」の正答率の高さが観点「思考・判断・表現」の正答率の高さにつながりました。
理　　科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を4.8ポイント上回り、区平均も5.3ポイント上回りました。内容別では、「化学変化と物質の質量」で10.2ポイント、「電流の性質」で13.6ポイント、全国平均を上回りました。「化学変化」で4.3ポイント、「電流の正体」で3.7ポイント下回りました。	「知識・技能」は全国平均を4ポイント、区平均を5.5ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を6ポイント、区平均を5.1ポイント上回りました。全国平均と区平均を上回りましたが、前年度校内平均正答率と比べると3.5ポイント下回りました。	基本的な内容については、定着ができています。しかし「電流の正体」、「電流と磁界」の分野で両観点ともに正答率が低くなりました。他の分野と異なり、年度末に扱った単元のため、問題演習の不足が主な要因と考えられます。
英　　語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、全国平均を9.8ポイント上回り、区平均は0.8ポイント下回りました。内容別では、「場面に応じて書く英作文」では、区の平均を7.0ポイント程上回りましたが、「3文以上の自由英作文」では5.0ポイント程下回りました。	「知識・技能」は全国平均を9.4ポイント上回り、区平均を0.6ポイント下回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を10.3ポイント上回り、区平均を1.1ポイント下回りました。「知識・技能」「思考・表現・判断」のどちらにおいても、前年度の校内平均は上回りました。	リスニング、リーディング、ライティングの各分野においても、英作文の問題での無回答率が25%と大きな割合を占めました。また大問3、4、8での正答率が低いことから、文章の要点を掴むことに課題があると考えられます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （国　語）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	全体正答率は67.4%と区（66.4%）や全国（62.7%）を上回りますが、記述の「条件」を守る技能に課題があります。特に問3（質問作成）の無解答率は31.8%に達し、区平均（23.1%）と比較しても顕著に高い数値です。また、誤答についても、内容を捉えていても「話し言葉にする」「直前の発言を踏まえる」といった条件を欠いてしまったことによって誤答となった傾向がみられました。	記述前に条件を視覚化し、自己点検する「条件チェックリスト」を導入します。今回のような条件の場合では、「問いへの答えになっているか」「文末は『～ですか？』になっているか」等、必要な条件を一項目ずつ確認させるチェックリストを提示し、それに沿って自己チェックする習慣を付けさせるとともに、書き出しのハードルを下げます。 また、モデルとなる模範解答を提示し、どの部分がどの条件を満たしているのかを構造的に理解させる指導を徹底していきます。	「きたコン」を活用し、互いの作文を読み合い、添削し合う活動を行います。端末上で学級全体の回答を共有し、他者の良い表現を参考にさせます。また、付箋機能を用いて、記述条件（「話し言葉か」等）を満たしているかを生徒同士で相互にチェックし、アドバイスし合うことで、推敲の技能を習得させます。
8年	平均正答率では、全国、区の平均をともに上回っており、これまでの学習内容が定着していることが伺えます。しかし、「文法・語句に関する事項」や「説明的な文章の内容を読み取る」「文学的な文章の内容を読み取る」等の読み取りの問題、そして「文章に書く」等の文章記述問題が全国、区の平均を下回っているため、国語の基礎的な漢字・語彙の定着を目指しながら、普段の授業から読み取り問題や文章記述問題等を繰り返し指導していくことが、平均を高めていく上でのポイントになると考えます。	読み取りの問題に関しては、教科書の文章だけでなく、様々な文章に授業内で触れさせ、初出の文章への抵抗を減らすことができるように努めます。「話し合いの内容を聞き取る」の平均向上のためには、授業内で話し合い活動を多く導入し、聞き取った成果をワークシート等にメモするという活動を習慣化します。また、文章記述問題に関しては、授業で学んだ内容を実生活と結び付け、自らの体験を記述することができるよう、生徒が身近に授業内容を捉えられるような発問や問いかけを繰り返し実践していきます。	読み取り問題に関しては、高校受験の過去問題集や受験対策の問題集等を活用し、初出の文章の読み取り方などを解説していきます。教科書の文章についても、初読の感想や解釈について、複数の生徒で共有しながら他者の解釈に触れさせ、客観的に文章を読み解く力を醸成します。文章記述問題では、文章を書かせる活動を多く導入し、定期考査の作文問題に繋げていきます。また、上記で用意する高校受験の過去問題集や受験対策の問題集等の作文問題も活用し、初出の問題に対応する力を養っていきます。
9年	校内平均67.7%と極めて良好ですが、複雑な条件を伴う記述の正答率の低さが目立ちます。 問21（共通点の記述）では、指定語句「姿勢」を使い忘れたことによる誤答が25.9%でした。また、大問7（意見文）では無解答率が約21.0%に達しました。複数の資料を読み解く能力（情報の扱い方 77.8%）は高いものの、それを統合した文章として構成し、さらに指定されたキーワードを適切に用いて書く力に課題が見られます。	指定語句をあらかじめ組み込んだ記述の「型」を提示し、スモールステップで練習します。特に問21のような共通点を述べる設問では、「〇〇は～です。これは～という〇〇の〇〇という点と共通しています」のように固定した型を伝えたうえで条件の使い漏らしによる失点を防げるようにします。	「きたコン」によるプレゼンテーションの学習や、作文を共有し相互に読み合う活動を実施します。 複数資料を統合した意見をスライドにまとめ、共有フォルダ等で他者の構成を参考にしながら推敲する活動を通して、論理的な構成力を高めます。 また、条件を的確に満たした記述例を、振り返り学習や掲示資料として共有することで、記述技能のポイントを学級全体で段階的に確認し、定着を図ります。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （社　会）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	平均正答率は、全国平均に対して0.9%下回り、区平均も1.6%下回る結果となりました。領域別にみると公民的分野の「日本国憲法」「日本の政治」の2題は全国平均と区平均を上回っていますが、歴史分野の5題は全て区平均を下回っており、歴史的分野の学力向上が求められます。特に、短答や記述解答形式の設問の正答率が低くなっています。歴史キーワードを正しく漢字で書ける等、基本的な知識を身に付けさせることが求められます。さらに、文章での説明問題に対応できる表現力の育成が課題です。	歴史的分野に対して苦手意識をもっている生徒向けの授業改善を図ります。歴史キーワードを書くことに苦手意識をもつ生徒向けに、授業で単語を板書する場合は、見やすく丁寧に書き、間違えやすい点を説明することで短答での回答力を向上させます。また、難しい歴史事項の背景の説明は、平易な表現で説明を行い、歴史的分野全般に興味をもたせ、学習意欲を高めていきます。地理的分野では、地理用語を提示するカードを活用し基礎的な内容の知識の補充・定着に務めるとともに、ICT機器を活用した視覚に訴える資料提示により、丁寧な解説をしていきます。	歴史、地理の両分野で、基礎基本の定着を図るために、単元が終わるごとに小テストを実施します。また、ICT機器を活用して調べたり、話し合い活動をしたりすることに加え、調べたことを発表する機会を多角的に設定し、表現力を高めていきます。地理的分野では、長期休業中の課題を有効に利用し、世界の国を紹介するポスター制作に取り組ませることにより、地図、イラスト、グラフを効果的に表現する力の育成を図ります。
8年	平均正答率は、全国平均を1.7ポイント下回り、区平均も1.1ポイント下回りました。内容別では、全国平均と比べると、地理の分野で0.5ポイント下回りました。特に課題があるものは、「日本の姿」のもので都道府県の名称と位置を資料から読み取る問題に課題が見られます。前期課程の時から苦手と申し送りがあったので継続的に授業や小テスト等で取り扱う必要があります。歴史の分野で2.6ポイント下回りました。「中世の日本」がどの問題も全国平均を大きく下回っています。特に基礎の問題で「知識・技能」に課題が見られます。これは年度末の学年末考査後に授業で取り扱った分野のため、十分な復習を行うことができなかったからだと思います。確認テスト等の実施をする必要があります。	地理の分野では、都道府県の名称と位置が未定着であるため、8年生で実施する「日本地理」の授業の各単元の最初に都道府県の名称と位置を地図帳を活用して調べさせ、生徒が理解できるように指導します。 歴史の分野では、「鎌倉時代」から「応仁の乱」までの政治、室町文化に課題が見られ、多くの生徒が、扱う歴史上の人物の多さで苦手意識をもっています。7年生の復習として定期考査以外の場面で、小テスト等を行い、知識の定着を図っていきます。	基礎の問題が目標値に達していたいため、活用も区・全国平均値からポイントが低くなっています。授業改善の内容を行いながら、「資料活用」を長期休業中の取り組みとして行っていきます。この「資料活用」は地図から読み取り、グラフや表の読み取り、年表の活用を行っていきます。
9年	平均正答率は、全国平均を1.3ポイント上回り、区平均も0.7ポイント上回りました。内容別では、全国平均と比べると、地理の分野では2.5ポイント上回りました。特に課題があるものは「地域調査の手法」で、区平均から5.1ポイント下回り、全国平均から7.4ポイント下回っており、地図を活用した問題に課題が見られます。歴史の分野では0.2ポイント上回りました。特に課題があるものは「明治時代」です。これは年度末の学年末考査後に授業で取り扱った分野のため、十分な復習を行うことができなかったからであり、確認テスト等の実施をする必要があります。	歴史の授業としては、「明治時代」の海外との関わりや政治の変化についての部分で生徒の苦手意識が強いと考えています。定期考査後に学習した部分のため、復習として定期考査以外の場面で、小テストを行っていき、知識の定着を図っていきます。 また、地図を活用した問題への対応として、公民的分野の授業の中で地理的分野を復習する時間を設け、7～8年次での既習事項を再確認していきます。	歴史の授業としては、「活用」の能力をさらに高めるために、複数の資料から判断することが課題として挙げられると考えています。授業の中で複数の資料から考察し、課題解決をする授業をさらに増やしていきます。 公民の授業として、ディベート学習や模擬裁判などを導入することにより、多様なグループ学習に加えて現代社会の課題を考えさせる活動を取り入れ、一斉講義形式以外に、意欲的に学習活動へ参加できるような授業形態を工夫していきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （数　学）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
7年	「場合の数」については、全国平均を11．4ポイント、「グラフの読み取り」については、5．0ポイント下回りました。また、「小数の計算」については、目標値を5．2ポイント下回りました。「場合の数」については、樹形図などを用いて、場合の数を全て数え上げられるように、丁寧に指導する必要があります。「グラフの読み取り」については、他教科の資料の読み取りにも繋がる部分なので、横軸・縦軸のが何を表しているのかなど、細かいところから一つ一つの情報を確認し、指導していく必要があります。「小数の計算」については、基本的な計算の規則を徹底させる必要があります。	毎授業の取組として、導入に授業内容と関連した復習問題を行い、基礎学力の定着を図ります。また、「データの分析と活用」の単元においては、データの傾向を正しく読み取るために、データを整理し、ヒストグラムや度数分布表を作成します。グラフを作成することを通して、グラフを読み取る力を付け、理解を深めさせます。「小数の計算」においては、様々な単元の中で意図的に数値を小数や分数にして出題することで、日常的にそれらの計算に触れられるようにします。その中で途中式を丁寧に確認しながら解き方を指導し、定着をはかっていきます。	基礎クラスでは、3～5問程度の復習テストをこまめに行い、基礎学力の定着を図ります。解いたままにならないように、フィードバックを丁寧に行い、生徒が理解するまでそれを繰り返します。標準クラスでは、発展問題を取り扱い、さらに力を伸ばせるように指導を行っていきます。どちらのクラスも生徒が互いに説明し合う機会を多く設けるようにします。
8年	全ての内容項目で全国平均を上回りました。区平均と比較すると、「平面図形」の分野で0.3ポイント、「データの分布の傾向」の分野で2.1ポイント下回りました。特に「平面図形」の「回転移動」と「データの分布の傾向」の「範囲」の正答率が低かったです。「回転移動」については、デジタル教科書などを用いて、丁寧に指導する必要があります。「範囲」については、「範囲」に限らず、言葉の意味を再確認し、データの読み取りの際の利便性について理解させる必要があります。	授業の導入では前時の復習を行い、基礎基本の定着を図ります。習熟度別少人数指導を活用し基礎クラスでは計算問題を特に丁寧に練習し、力を伸ばしていきます。標準クラスでは協働学習を取り入れながら、意見交換を活発にし、考える力や表現する力を伸ばし、思考力を高める授業展開をしていきます。	単元ごとに単元テストや小テストを実施し、定着度を確認しながら進めていきます。その結果、基礎クラスでフォローが必要と判断した生徒には補助指導員と協力しながら、個の対応をしていき、つまづきを減らす工夫をしていきます。標準クラスでは発展的な内容にも挑戦し、数学を活用することの楽しさを味わいながら、意見交換や発表を通じて深く学ぶことができるよう促していきます。
9年	昨年度と比べ大幅に成長を感じました。30問のうち目標値を超えなかったのが「1次関数」の「式とグラフの関連付け」の1問だけでした。（昨年度は5問）「1次方程式」「文字式」昨年度に引き続き「式の計算」の正答率は高く、基本的な計算問題を解く力を維持できていることがわかります。さらに「証明」の問題の正答率が全国と比べても19.5%も高く、昨年度の課題であった物事を論理的に説明する力が身に付いている生徒が増えてきたことが伺えます。このまま苦手部分を克服して、理解力、得点力を伸ばしていくことが課題であります。	少人数指導を行っているため、基礎クラスでも普段の授業から数学用語を繰り返し説明し、言葉の意味を忘れないように指導します。授業の冒頭では前回の授業の復習を行い、定着を心がけています。今年度も「相似」の証明問題で論理的思考の練習をしてさらに伸ばしていけると考えます。昨年度と同様に根拠を明確にして説明する力を徹底して指導していきます。	単元ごとに評価テストを実施し定着度を測り学習意欲向上へとつなげます。その結果を考慮して、特に基礎クラスでは補助指導員とともに協力しながら、基礎の定着を図ります。標準クラスでは得点力が伸びるよう解くときのスピードアップやミスが減るように注意すべき点を、受験に向けて指導します。また授業での教師の発問の工夫により、生徒の説明する力、言葉で表す力を高めて、思考力を伸ばしていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （理　科）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
７年	全国平均に対して校内平均が2.5ポイント低い数値となりました。内容別では、「植物のつくりとはたらき」、「動物のからだのつくりとはたらき」「生物とかんきょう」の分野で全国平均を大きく下回りました。生物分野は実物を見たり、動画を活用してイメージを深め、しくみについてはなぜ、そうなるのかについて各々に文章や言語化できるようにしていく必要があります。また、全体的に記述をする問題が苦手な傾向にあります。	身近な事物・材料を教材化し、できるだけ実物を提示して授業を行い、生徒に興味・関心をもたせるような授業を展開します。 特に生命分野の「植物のつくりとはたらき」や「動物のからだのつくりとはたらき」などの分野は実際の植物や動物のからだの映像を確認して、理解を深めさせます。 また、既習事項の定着を図るために、単元のまとまり毎に復習テストを実施し、既習内容を確認させます。	日々の実験や観察のまとめの時間を確保し、自分の言葉で記述や考えをまとめたり、発表したりすることを大切にした指導を行うことで、表現を伸ばしてきます。 定期考査前に問題演習等の時間を設定し、疑問が出てきた生徒や理解が不十分な生徒に対応していきます。 また、単元のまとまり毎に小テスト等を実施し、基礎的な内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けるようにしています。
８年	平均正答率は、全国平均を2.4ポイント下回り、区の平均も1.6ポイント下回りました。内容別では、「音の性質」、「力の性質」の分野で全国平均を大きく下回りました。また、全国値の結果でも同じような傾向にありますが、粒子分野の「水溶液の性質」、エネルギー分野の「力の性質」が正答率が低い結果となりました。昨年度は「力の性質」については学年末に扱った単元であり、学年末考査範囲に入れることができず、他の分野ほど授業時間を確保できなかったことが要因と考えられます。「水溶液の性質」については計算が入ると苦手となる生徒が多く出るため、計算問題を扱う時間を確保する必要があります。	「光の性質」や「力の性質」などのエネルギー分野は作図を行う時間を授業時に確保して、作図作業を通して多くの生徒が理解できるよう取り組んでいきます。 「水溶液の性質」については、この分野に限らないものの、計算を扱う単元において、苦手とする生徒が多く出るため、計算問題に取り組む時間を確保することや、小テストなどを行って定期考査以外の場面でも理解度の確認を行う場面を増やします。 また、授業の進度を調整し、年度末に１年間の総まとめとしての定着度を確認する場を設定します。	基本的な思考・判断・表現については、定着ができています。しかしながら、全体的に「知識・技能」の観点の正答率が低いため、理科用語の定着や単元の学習のまとめの内容を授業時間に扱います。 また、理科用語の定着を確認するための小テストや計算問題への取組に時間を多く当て、理科用語の確実な定着や基本的な計算ができるようにします。
９年	平均正答率は、全国平均を4.8ポイント上回り、区平均も5.3ポイント上回りました。「知識・技能」は全国平均を4ポイント、区平均を5.5ポイント上回りました。「思考・判断・表現」は全国平均を6ポイント、区平均を5.1ポイント上回りました。しかし、「化学変化」で4.3ポイント、「電流の正体」で3.7ポイント全校平均を下回りました。 「化学変化」や「電流の正体」では図や粒子モデルなどを活用しないと仕組みが理解しづらい分野であると考えられるため、粒子モデルの教材等を活用して、粒子の組み合わせや動きのイメージをもつことができるように丁寧な指導をする必要があります。	身近な事物・材料を教材化し、できるだけ実物を提示して授業を行い、生徒に興味・関心をもたせるような授業を展開します。 特に地球分野の「気象の観測」や「日本の気象」などの分野は四季の天気図や日ごとの天気の移り変わりを実際に確認して、理解を深めさせます。 また、既習事項の定着を図るために、単元のまとまりごとに復習テストを実施し、既習内容を確認させます。特に計算を扱う分野や、化学式などは確実に定着させられるよう指導します。	定期考査前に問題演習等の時間を設定し、疑問が出てきた生徒や理解が不十分な生徒に対応していきます。 また、単元のまとまりごとに小テスト等を実施し、基礎的な内容の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けるようにします。 また、３年間の学習のまとめ問題集を用いて、これまでの学習内容を復習する機会をつくります。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （英　語）

東京都北区立都の北学園

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
７年	平均正答率は、全国平均を4.3ポイント上回ったが、区の平均は0.4ポイント下回りました。内容別では、「アルファベットの読み、発音、フォニックス」、「会話文のリスニング」の分野で大きく下回りました。大問14の「英文の完成」については区の正答率を上回ることができたが、大問15の自由英作文については正答率を下回り、無回答が6.7ポイントであったことから、情報が何もない状態で書く英作文においては劣る傾向にあると思われます。そのため、今後は会話文などのまとまった文量のリスニング活動を実施すること、また英作文などの表現活動を授業内で取り入れることが課題であると思われます。	大問1、2の語彙・フォニックスの問題での正答率が低いことから、新出単語の指導の際には何度もリピートさせるなど発音に特化した指導を行います。大問8～10の「会話文のリスニング」での正答率が低いことから、教科書本文の内容の導入の際に、オーラルイントロダクションや、リスニング活動により内容を理解させるなど、まとまった文量のリスニングの機会を確保した指導を行います。	新出単語を復習する際には、反復で発音練習をすることはもちろん、教員が発音した単語を書かせるなど発音を意識した指導をします。ALTに対して、自分自身の意見や経験を述べるような内容を発表するなど、英作文、ライティング活動、スピーキング活動を統合した表現活動になるよう工夫します。 毎回のUnit終了後には小テストを実施するのと、定期考査前には重要事項をまとめたプリントを作成し授業内で取り組むことで、基本的な内容の知識、理解が不十分な生徒に対して対応します。
８年	平均正答率は、全国平均を9.8ポイント上回り、区の平均も0.6ポイント上回りました。内容別では、「リスニング」、「語彙」「英作文」の分野で全国平均を大きく上回りました。しかし「英文の聞き取り」「「英文の読み取り」「情報に基づいて書く英作文」の分野では、5ポイントほど区の平均を下回りました。自分自身についての英作文では、区の平均を10.0ポイントから15.0ポイント程度上回っています。このことから、情報を文章から読み取り理解、判断し、表現する能力が劣っていると思われます。そのため、文章を読んで要約する等の読解演習、並びにまとまった文量のリスニング活動を授業内で取り入れることが課題であると思われます。	メールの文章や対話文、ニュース原稿などを用いたリスニング活動や、読解演習を行い、内容について要点をつかみ要約する作業などの日常生活に結びついた、実践的なアクティビティを取り入れることで、思考・判断・表現力を伸ばしていきます。	授業冒頭や定期考査で、初見の文章を用いたリスニング問題、読解演習を取り入れ、思考、判断力ならびに文章から情報を読み取る力を育成します。また、授業内で教科書本文の内容を扱う際にも、指示代名詞が何を指しているのか、また一番伝えたい要点は何かを考えさせるような授業展開をしていきます。 毎回のUnit終了後には小テストを実施するのと、定期考査前には重要事項をまとめたプリントを作成し授業内で取り組むことで、基本的な内容の知識、理解が不十分な生徒に対して対応します。
９年	平均正答率は全国平均を9.8ポイント上回り、区の平均は0.8ポイント下回りました。大問3、4、5、8において正答率が低いことから、文章のおおまかな内容は捉えられていても指示語が何を指しているのか、文章の要点は何かを掴むことに劣っていることが推測されます。また英作文での無回答が25%と多く占めていることと、「場面に応じて書く英作文」の正答率が良いのに関わらず、大問11の自由英作文の正答率が低いことから、思考・判断・表現力において課題があるように思われます。そのため、初見の文章の読解演習やまとまった文量のリスニング活動、英作文などの表現活動を授業内で取り入れることが課題であると思われます。	英作文への苦手意識をなくすため、授業内で英作文のテストを実施するなど演習の機会を増やします。 また教科書の本文の内容を扱うだけでなく、初見の文章の読解演習等を授業内で実施することで、文章の要点を掴む練習、また指示語が何を示しているのか読み取る練習を行います。またその際には、その文章についての自分自身の考え、意見を述べるために英作文に取り組む等、思考・判断・表現力を育成するような工夫を行います。	授業冒頭などで英作文のテストを実施することで、英作文への苦手意識をなくすよう演習を重ねます。 また、定期考査に初見の文章を取り入れるなど、読解力また思考・判断・表現力を伸ばすよう工夫します。 教科書本文の内容を扱う際にも、文章の日本語訳に取り組んだり文法、語句の解説をするだけでなく、指示語が何を指しているのか、要点は何かを意識した指導を行います。毎回のUnit終了後には小テストを実施することで、基本的な内容の知識、理解が不十分な生徒に対して対応します。